

令和6年度 やまがた社会貢献基金助成事業 活動報告書

団体名	蔵王緑の騎士団		
事業名	作り育て・山菜の魅力を知ろう		
助成事業区分	協働助成事業（テーマ希望型）【テーマ：「食」から築く子どもの健全育成事業 子どもたちの暮らしの多様化に応じた推進事業】		
団体の 所在市町村	上山市	事業費	518,965 円
		うち助成金額	502,906 円
事業実施期間	令和6年6月17日～令和6年11月30日まで		

事業目的・実施内容	(事業目的) 山形県は豊かな山の恵みを受ける県であるが、若い親その子供の世代は山菜に触れる機会が少なくなって来ている。そのため、気軽に安全な山菜採りの体験ができ、山菜の成長過程も観察できる場所を造ることとしました。これにより、山菜の魅力を知ってもらうことで、それを支える森林を理解してもらい、自然環境を保全することの大切さや食に対する理解が深まることを目的としています。
	(実施内容) 山菜園の整備と「山菜を知ろう体験会」の開催 ・令和6年7月～山菜園の整備と体験会の準備 ・令和6年9月29日「第1回山菜を知ろう体験会」開催 ① お話の会（写真1）、②歩道のチップ敷き、③山菜苗等の植栽（写真2）、④山菜料理試食、⑤ふり返りの会 参加者：幼児9人、大人16人、講師2人 *山菜に愛着を持ってもらうため、参加者に山菜をデザインした缶バッジを配布

写真1



写真2



事業の成果	*参加者から、山菜園の整備にも参加してもらい園地や山菜に愛着を持っていただくとともに、山菜や食の安全性への理解を深めていただいた。 *実際の山には食べられる山菜以外の植物もあるが、園地での体験により毒草など誤って食べることを防ぎ、安全に植栽や収穫の体験ができることが確認できた。 *気軽に安全な植栽・収穫体験ができる園地を整備したことで、園地での体験会を継続開催可能となった。今後も、参加者が生育している山菜に直に触れることで、特徴や見えない部分の理解、販売しているものとの違い、植物本来の味が理解でき、多くの方に山菜の魅力を伝えることができる。
今後の展望	この事業で得たノウハウや活動資材、連携団体とのつながりを活かして事業終了後も継続し、各イベントの実施の際には本団体のPRを行い、支援者の確保につなげます。 今回は初めての試みの事業であり、手探りの状態で行ったものです。今後は今回の経験をもとに、造成した山菜園を利用して、子どもたちをはじめ多くの方にふるさとの山菜の魅力を知ってもらう活動を継続して行っていく予定です。

体験会で提供した料理



山菜園の様子



体験会の参加者集合写真



団体概要

団体名 蔵王緑の騎士団

代表者 今野 昇

URL ameblo.jp/g-t-mottyan

蔵王緑の騎士団は、森林（もり）の大切さと豊かさ、楽しさの伝承を目的として設立しました。詳しくは、当団体のブログをご覧ください。

令和 6 年度山形県N P O活動促進補助事業
収支精算書

事業の名称	作り育て・山菜の魅力を知ろう
団体名	蔵王緑の騎士団

1 収入の部 (単位：円)

区分	精算額	内容
県補助金	502, 906	令和 6 年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入		
その他収入	398	ポイント収入
自己資金	15, 661	
合計	518, 965	

2 支出の部 (単位：円)

区分	精算額	内容
謝金	20, 000	調理謝金
旅費	5, 000	調理師派遣
印刷製本費	160, 923	パンフレット、缶バッジ
消耗品・材料購入費	225, 536	パラソル、木材・合板、苗、培養土、鉢、チップ・運送代、フレコン、飲料、食器、食材、ガソリン
通信運搬費	43, 806	切手
保険料	840	参加者保険料
使用料	3, 360	耕運機
人件費	10, 000	看板作成手当
(委託費)	49, 500	缶バッジデザイン料、看板
(備品購入費)		
(修繕費)		
合計	518, 965	